

「エア・フェスタ浜松2017」で広報活動を実施



制服を着て若手パイロットと
記念撮影



地本のブースでは
缶バッジが大人気

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、10月15日（日）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）で行われた「エア・フェスタ浜松2017」において広報活動を実施した。

当日はあいにくの雨天となり、残念ながら期待されていたブルーインパルス曲技飛行は中止され地上滑走のみの展示となったが、県内外から来場した3万人を超える航空ファンは、戦闘機や練習機の展示飛行やペトリオットをはじめとする各種装備品の地上展示などを楽しんでいた。

静岡地方協力本部は格納庫前の一角にブースを開設し、子供用制服・迷彩服の試着体験や航空機を写した自衛隊缶バッジプレゼントなどを行い、家族連れを中心に多くの来場者で賑わった。特に若手パイロットとの記念撮影コーナーは雨の中にもかかわらず長い行列ができ、最大30分待ちとなる大盛況となった。

来場者からは「雨は残念だったが、水しぶきを上げて離着陸する機体がかっこよく撮影できた。雨の中でもエア・フェスタに来てよかった」「ブルーインパルスの曲技飛行が見られなくて残念だったが、戦闘機の展示飛行は迫力満点だった」などの感想が聞かれ、雨天の中でもそれぞれが雨のエア・フェスタを楽しんでいる様子であった。

静岡地本は、今後もこのような大規模なイベント広報活動に積極的に参加し、幅広い方々に自衛隊への理解が深まるよう努めていく。

学生が砕氷艦「しらせ」で東京湾を体験航海



南極の氷を触る中学生



艦橋を見学する学生たち

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、10月21日（土）、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）から晴海埠頭（東京都中央区）間において実施された砕氷艦「しらせ」の体験航海に学生等を引率した。

砕氷艦「しらせ」は、文部科学省国立極地研究所南極地域観測隊の輸送・研究任務のため建造された南極観測船で、艦の運用は海上自衛隊によって行われている。同艦は例年11月から翌年の4月まで約半年間任務を行い、次年度の訓練期間中に学生等に対し体験航海を実施している。

当日は、台風の影響もあり雨模様であったが、近隣各都県の地方協力本部の引率による船に興味のある若者や協力者が多数乗艦し、静岡地本からは袋井所長・湯浅幸典2等空尉引率のもと、中学生等6人と高校教諭1人の合計7人が参加した。

横須賀基地において「しらせ」を背景に記念撮影をした後、乗員の誘導に従って乗艦すると、艦内ではそれぞれ自由に艦橋や食堂、居室、格納庫などを見学した。

また、格納庫ではしらせが持ち帰った「南極の氷」の展示や乗員によるラップ吹奏なども行われ、遠い南極を感じるとともに移り行く東京湾の景色を眺めながら約4時間半の航海を楽しんだ。

参加者からは「乗員からしらせや海上自衛隊の任務について丁寧に説明を受け、海上自衛隊に対する見識が広がった。めったにできない貴重な体験ができた」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も体験航海など若者が将来の夢を描くことのできる機会を活用した広報活動に努め、自衛隊に対する理解の向上に全力を尽くしていく。